

EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2009.9.1

No.62

この夏、いろいろなところで、福音のメッセージを取り次ぎました。そこでつくづく思わせられるのが「みことばに対する単純な信頼」です。聖書が創造主のことばであると思っているのであれば、みことばに信頼すればするほど確信が与えられ、祝福され、喜びが与えられるということです。

創造主は本人以上に私たちのことをご存じで、私たちを守ってくださいています。その一つに「紫外線からの保護機能」があります。太陽光線に含まれる紫外線は細胞にとって害なのです。そこで皮膚の奥で「メラニン」という黒い物質を作り、細胞を守ろうとします。これが肌を黒くする原因で、UVカットを塗ったり、日傘を差したりすることとを体内で自動でしてくれるわけです。このメラニンができる化学反応の過程は驚くほど複雑であることがわかってきました。

「メラニンの元は、アミノ酸の一つであるチロシン…これにチロシナーゼという酸化酵素が働き、ドーパという化合物に変わる。更にチロシナーゼはドーパにも働きかけ、ドーパキノンに変化させる。ドーパキロンは次々と反応し、ドーパクロム、インドールキノンへと変化し、最終的に、黒褐色のメラニンとなるが、構造は大変複雑であり、表記は難しい。」(素人には???)

これらの反応は精密にプログラムされているの

みことばへの信頼

反応を研究しています。私たちはその研究成果を利用してもらっているのです。これと同じことが「創造主と人間」の関係にも言えるのです。神は私たちの「罪」の問題を「十字架と復活」という方法で解決しようとされました。

・私たちの罪の身代わりにイエスが十字架の上で裁かれたこと。

・そのイエスを三日目によりみがえらせること
 によって、この方法が間違いないものであることを証明されたこと。

この方法はある意味で単純で子どもでも理解できます。(これは完成した薬を使うようなものですが)しかし、この方法がもたらされるためには非常に複雑で、長い年月に渡る神の計画と実行が必要だったので。(素人には薬の作り方を理解するのが難しいのと似ています)

「十字架のことは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、**神の力です。**」(第一コリント一章八節)

十字架による救いなんて、単純すぎて馬鹿らしい、と多くの人は感じていますが、それは「十字架」の役割の複雑さを知らないから

です。「十字架と復活」システムの完全さ・複雑さを知りたければ「旧約聖書」をじっくり調べるといくらかでも味わうことができます。

「十字架のことは」のところに「神のことは」を入れてもよく意味がわかるでしょう。神のことばの約束は、数学における「公式」に似ています。公式にあてはまれば答えが出るということをよく経験したと思います。どうしてその公式ができたらかを知らなくても心配なく、必要なのは公式を間違いない覚え、必要なところに正しい数値を入れればいいのです。同じように聖書は神が備えた霊的世界の公式です。それを信じた人は、単純にみことばを自分の生活にあてはめ、その効果を味わっているのです。みなさんも聖書のすごさを理解しておられるのであれば、是非この「公式」を使ってください。詳しいメカニズムはわからなくてもきつと大きな祝福を体験できます。

「心を尽くして主に拠り頼め。

自分の悟りにたよるな。

あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。

そうすれば、主はあなたの道を

まっすぐにされる。

自分を知恵のある者と思うな。

主を恐れて、悪から離れよ。

それはあなたのからだを健康にし、

あなたの骨に元気をつける。」(箴言三章五〜八節)



すべての背後に神の配慮を認めてください。事を行う前に、創造主に祈ってみてください。

八月

「んな」じまつました！ 行事報告

宮崎から
来阪したT家と
USJへ
ハイ、ジョーズ！



医療宣教師のU姉とH姉
が来訪。パキスタンのレポ
ートを聞きました。



- 一日 Y君お泊まり会
- 六日 USJ (T家と共に)
- 七八日 日曜学校キャンプ (光滝寺)
- 十一・十二日 高校卒業程度認定試験 (H)
- 十二・十五日 バイブルキャンプ (普爾高原)
- 十三・十五日 チアサマーキャンプ (仙台)
- 十七日 服部緑地プール
- 十七・十八日 Mちゃんたちお泊まり会
- 二十一日 M姉来訪
- 二十四日 大正区ヘサイクリング
- 二十七日 長居プール
- 二十九日 Jクラブ「水で遊ぼう」
- 三十一日 U姉・H姉来訪

仙台サマーキャンプ

E

ぼくにとって二度目のサマーキャンプはドキドキしました。バスは大阪から仙台まで行くのに約十二時間かかりました。しかし、バスの中には座布団や布団があり快適でした。ウォーターファイト(水遊び)では五回ぐらいプールに投げ込まれました。しかも、テラスの上からも迫力満点の水鉄砲でかけられ、メガネがふっつんでしまいました。隠れていたお母さんも服のまま水をかけられました。すいか割りでは目隠しをして何も見えないぼくにおもしろ半分にだまして、違う方向に行かせようとしましたが、だまされずに友達の声信じて見事割りました。包丁で切るのと違ってぐちゃぐちゃになったけど味は最高でした。

夜にはバーベキューをしました。自分で串にさしてソーセージやマシマロを焼くことはめったにできないのでおもしろかったです。口に入らないほどの大きなハンバーガーを作りました。

最後の日には滑り台ですべっていると下から友達のパールが顔面に当たりメガネが折れてしまいました。買ったばかりだったので、ショックでした。

他にも海水浴や松島遊覧、夜には打ち上げ花火、けいどろ(関東ではどろけい)をし、数えきれない楽しいことがありました。忘れられないキャンプとなりました。

スタッフとして参加したキャンプ

M

八月七日：一年前のこの時、僕は気胸という病気のため病室にいました。そして今年二〇〇九年、光滝寺キャンプ場に立っていました。集会の日曜学校で毎年恒例の夏のキャンプ、今回はスタッフとして、病気で不参加だった去年のリベンジとして、臨みました。

実はこのキャンプ場、僕が日曜学校の生徒だった時、初めてのキャンプの舞台なのです。今でも目を閉じると、楽しんだ思い出がわき出てくるようなキャンプだったので、今度はスタッフとして再び訪れるのは不思議な気持ちになりました。しかし、スタッフとして二日間過ごして：あの楽しかった思い出は「多くのスタッフの努力」によって成り立っていたのだと思われされました。キャンプ場なので、一日三食の用意、あらゆる備品の準備など、やることは限りなくあります。(僕の担当はラジオ体操、朝食作り、備品運び…etc.それでも、ほんのわずかです。)

キャンプにおけるスタッフと同じように、神様はこの世界において一人一人のためにを導いてくださる。しかし、その神様に対して、自分は感謝を自分は忘れていないか：それこそ、子供達が遊ぶ中、働く側に立って見えたことでした。キャンプで学んだことを、今後の活動に活かしていきたいと思えます。

編集後記

暑い、暑い夏が過ぎ去ろうとしています。熱い、熱い夏でもありました。家族一人一人いろんなことに挑戦し、熱く燃えたのでした。暑さもゆるんで、いよいよ読書モード、勉強モードにシフトです。